

中文大家乐

みんなで楽しむ中国語

第12号 中秋節号(2011・9・12)

<http://homepage3.nifty.com/chinese-wang>



2011・10・12 発行 年3回
松江中国語教室連盟
日本中国語検定協会松江会場

イラスト 内田弥生

遇到你是我的缘

—我们和九寨沟的孩子们—

时隔三年我又回到了高原——九寨沟。那熟悉的学校、亲切的面孔、还有纯朴的村落。

一个偶然的让我结识了这群孩子。记得数年前我刚刚来到这所学校时、孩子们才刚刚进入2年级。明亮的教室里、摆放的却是不相对称的破旧桌椅、寒冷的冬季里、教室里却没有暖炉。我穿着厚厚的羽绒服、面对着一双双好奇的眼睛、一张张冻红的小脸、还有憨憨的微笑时、我突然感到一股暖流、涌上了心头。我告诉他们从今以后、我要和他们做朋友、和他们一起学习的时候、孩子们高兴得拍起了手。这个班的孩子都是藏族、他们除了学习规定的课程之外、还要学习自己本民族的语言和文字。

由于这里是农牧区、他们大多数的家庭经济状况不太好、所以我和日本朋友们决定在学习文具上帮助他们。每年一次去九寨沟看望孩子们、了解孩子们的学习情况、和他们一起上课、游戏等等。在和孩子们接触当中、我了解到由于各种原因、孩子们的学习用具很少、娱乐用具也缺乏。一次、我让孩子们画画、后来才发现孩子们没有图画纸、大部分人是用日历的背面或者用过的纸的背面画的、而且因为没有彩色画笔、所以颜色很单调。听老师介绍、彩色画笔只有学校有、所以孩子们是在学校完成的画画。还有中午休息的时间、因为学校离家很远、大多数的孩子不能回家吃午饭、所以孩子们都是带饭来的。一次、一个女生也给我带来了午饭、我非常感动但是也很难过、那午饭不过是几个烤过了的土豆和用荞麦面做的馍馍而已。没有蔬菜、学校中午提供免费茶水、所以孩子们一年到头、吃的大多是土豆沾辣椒或者盐巴。但是孩子们很快乐、他们告诉我、每天走一个多小时的山路来上学是一件非常快乐的事情。因为学校里有同学、有很多图书、还有足球、篮球。可是后来我了解到、学校的经济条件也不好、很多东西都是国家无偿提供的、还有就是社会各界捐助的。

我从心底非常敬佩学校的老师们、他们每天工作非常辛苦、有时候需要护送孩子们回家、往返两个多小时。有的还要自己掏钱替孩子们买学习用品等等。他们一直都是这样默默无闻地工作着。在做家庭访问的时候、孩子们的家长们也很热情、也非常让我感动。一位家长说：我们的文化水平很低、所以希望孩子们能好好学习、我们再辛苦、也会让孩子们上学的。还有一个孩子的哥哥对我说、因为家境不好、所以作为长子的他、放弃了升学的机会、初中一毕业就回家务农、为的是减轻父母的负担、和能保障两个妹妹继续上学…像这样的例子还有很多、但是我看到的都是一张张的灿烂的笑脸、一双双对未来充满希望的眼睛。

2008年因为四川发生大地震、本来打算参加孩子们的毕业典礼、结果没能成行。后来的两年因为诸多原因也没能回去、所以心里一直牵挂着他们。好在学校的老师经常来信告诉我孩子们的情况、知道了他们都进入了初中、住宿在学校里、学习也非常努力。孩子们的家庭状况也比以前好了。这次我重返了他们曾经的学校、见到了老师们。因为孩子们的中学在镇上、而且学校有活动、这次非常遗憾没有见到。不过老师们告诉了我一件非常高兴的事情、那就是所有这个班的孩子都升入了高中、有的甚至考取了重点学校。(我一直担心的是所有孩子能否顺利升入高中、因为中国实行的是九年义务制教育、升入高中后、需要自费的地方很多、比如学费、书本费等等、我担心因为经济原因出现失学的孩子)我听到这些真的是高兴极了。孩子们没有辜负家长、老师的期望、也实现了我和他们之间的约定、那就是努力学习、快乐成长。

在这里我也要感谢日本朋友们对他们的支援和疼爱、谢谢你们的好心、希望有机会能再一次重返故地、和孩子们见面、欢谈。
(山阴中央新报文化中心 中文教室 胡斌)

島根人在中国

土谷啓子さんは山陰中央新報文化センター中国語教室の生徒でした。現在、中国広州市「クラウンプラザ広州シティーセンター」のホテルマネージャーとして働いています。

ここに地元の新報が彼女を取材した時の記事を転載します。彼女のご活躍を祈ります。

第一眼见到她时，她刚从客户那里回来，有点匆忙，手上还拎着个公司的纸袋，里面装着公司的资料和一套工作服。跟在男同事身后的她有点害羞，眼神有点闪烁，这就是一个来自日本岛根县的姑娘——土谷启子（简称启子），来广州仅仅三个月，没想到对这个城市“一见钟情”。她工作很勤奋，她说：“我就是为客人服务的，我希望做得比别人更好一点，让客人满意。”

我并不觉得孤单

“在这里想家吗？”“想，想妈妈，还有两个妹妹。”启子说，妈妈常把一句老话放在嘴边——“如果爱自己的孩子，就让他自己去旅行”。5岁那年，她妈妈居然让她一个人坐火车去乡下看望奶奶，临出门交代的一句话是：“不懂的，自己去问别人。”这句话在启子心中留下很深的烙印。启子承认，她从小就受到妈妈的影响，自己很独立，想到外面闯闯，什么都想学。几个月前，接到在深圳做酒店行业的朋友的邀请，因为5年前在重庆学过一年汉语课程，中文还不错，几经思考，于是下定决心过来工作。

虽然来广州时间不长，但她已经对这个城市有了好感。“广州是个客流量很大的城市，我每天要面对来自世界各地的不同的人，特别是这一带日本客人很多，能经常和同胞交流，我并不觉得孤单。在广州能也有机会认识更多的外国人，能为他们服务，是件很开心的事。”

“因为在广州，所以要饮茶”

和大多数外国人一样，广州的美食也让启子赞不绝口。“来到这里后，我发现有好多食物，好多餐厅，水果也非常丰富。”冷不丁的，启子还冒出一句“因为在广州，所以要饮茶”。在说“饮茶”时，她用的是粤语，音发得非常标准，她一边掩面偷笑，一边说，“广州的小吃太多了，都很好吃。”

“现在的工作不像在日本时那么忙，没有时间休息，现在工作是工作，周末是周末，我很享受这一点。”固定的休息时间让启子有时间对广州进一步了解，她去过沙面，很喜欢那些老房子，她喜欢骑单车旅游，在跑遍广州周边之后，还想去云南丽江、西双版纳。

广州对于她来说，到处都是新鲜的，到处都要学习，虽然时常感觉有点累，脑子有点忙，但还是很开心。她还特佩服广东人，“我身边的广东人能说粤语、客家话、普通话、英文，他们都很厉害！”启子说。

想多了解别人的需求

酒店的公关经理洪先生对我讲：“启子来到酒店之后很勤奋，特别好学和爱思考。”这一点，在采访过程中给我也有很深的体会。

“我是很喜欢思考，想想客人需要什么，怎么样可以真切地帮到他们。有时候，在工作之余，我也喜欢思考，甚至在看电影的时候，都会思考演员的站位、灯光的方向、镜头的走势，我觉得分析这些很有意思，你可以从中学习到别人的思路，了解人家想要的东西。”有时候客人一句话的声调高低，都能引起启子的注意。启子说，客人说话有时大声点，她都会想想是不是有什么失礼的地方，有时候只是个误会，她也要琢磨一下，“我只是想多了解客人的想法，不断学习。”启子说。（来源“金羊网 -- 新快报”）

旅の思い出（２）

上海から大連経由で3時間かけ、夜長春空港へ。いよいよ娘が一年間過ごした吉林大学へと向かう。長春では、娘の住んでいる留学生寮に滞在することにした。留学生寮は、2階から6階まではホテルとして、7階から12階までが留学生寮として利用されている。新しくて、清潔感のある住まいだった。

夏期休暇となり各国に帰国している学生も多かったが、それでも残っている学生たちは「お母さんが来た！」と、部屋を訪ねてきてくれた。が、私はとうとう中国の強い菌に冒され頭痛でダウンしてしまった。外国旅行には普段から飲み慣れた薬を持参するというが、私の体験上、その国ではその国の薬を・・・の方が効果的である。以前、息子と北京を訪れた時も普段は頑強な息子が、何日目かに腹痛と発熱を起こした。ひととおりの薬は持参していたが、全く効き目なし。結局夜中、往診を頼み注射、飲み薬で翌朝は元気を取り戻した経験もあった。今回も近くの薬局に行く。広い薬局ではまず薬剤師の人に病状を告げて相談し、用紙に処方してもらった薬を書いてもらい、別の場所にあるレジで支払いをする。その時引き換えの用紙をもらい、直接、薬剤師から薬を受け取る、というシステム。また、娘の友人である中国人の学生が、私の具合が悪いということを知り心配してくれ、これこそよく効く！という薬を部屋に届けてくれた。嬉しくいただいた薬も全て飲み、回復した。一気に具合が悪くなったが、薬が効いて一

気によくなったのであった。

長春滞在時には、観光地から普段の街の様子と、さまざまな場所を見て回った。いくつか紹介していこうと思う。

娘がいつも利用していた近くのスーパーマーケット。売り場の広さ、品物の豊富さ・・・全て日本のスーパーとはスケールが違う。また安い。入り口には受付があり、持ち物全てをここに預け、財布だけ持って店内に入り買い物をするというシステム。万引き防止のためということらしい。娘とはもう顔見知りらしく、あちこちで「一緒にいるのは、ママ？」などと人なつっこく会話をしている。遠く離れていても、たくさんの人たちから声をかけてもらい、親切を受けて生活をさせていただいていたんだ、ということを目の当たりにし、本当にありがたく思い、中国全ての人たちに対して感謝の気持ちが溢れた。

また、長春の人たちの台所ともいえる、市場にも行った。市場では農産物、肉（特に豚肉）などが溢れていた。肉はいろいろな部位の塊が無造作に置かれ計り売りであった。その時の売り場の人たちの笑顔は忘れられない。そして、楽しい場面にも遭遇した。子供たちは小さい時ズボンのおしりは真ん中がパクリとあいている。おトイレしやすいようにと考えられた利便性にすぐれたもの（？）らしい。市場にもこのズボン着用の無邪気な男の子がいた。あまりのかわいさにカメラを向けると大喜びで、いろいろなポーズを繰り返しやってくれた。お店から家族と思われる全員が出てきてポーズ。どこの国でも子供は無邪気で私たちの心を癒し、周りのみんなを笑顔にしてくれる天使である。

街のあちこちには美容院がたくさんあった。最近では、おしゃれな人が増えたという。私も、娘に誘われて、「洗髪」を試みることにした。シャンプー剤により値段が違うが上ランクのシャンプーを選び（30元）いざ体験！すると、いきなりシャンプーの原液を頭にかけてゴシゴシ頭皮をもまれた。角状に立った泡をバケツに落とし、またシャンプーの原液を頭皮にかけてごしごしもんで・・・の繰り返し。シャンプー剤一本使い切るまで一滴の水も使わない、という初めての体験。終わるとシャンプー台に行き、下を向かされ（日本では上向き）洗髪。次にタオル一枚渡され、自分で好きなように乾かして待つ。その後、腰から上のマッサージがはじまる。気持ちいい。何日分の疲れが取れた感じ。周りではたくさんの人たちが楽しそうにおしゃべりをしながら気持ちいいひと時を過ごしていた。

旧満州時代の建物がそのままのこっている新民大街という大通りにも行った。この通りの左右に満州国時代の面影を見ることが出来る。病院や大学、博物館として、機能している建物もあれば、内装も当時の面影を残したまま、開放している施設もある。儀満州国務院は現在、医科大学であるが、4階が展覧コーナーとなっている。当時の日本軍に関する写真や、実際に使われていたレンジ、冷蔵庫、などを見ることが出来た。内装はとても豪華で、階段の手すりは大石造りであった。当時のエレベータもそのまま残されており、手動式で乗ってみた。

また、ラストエンペラー溥儀が満州国の皇帝となった時の皇宮にも訪れた。ここでは、溥儀と妻たちの生活の跡が残っており、部屋を覗いたりいろいろな遺品を見るうちに、映画『ラストエンペラー』の数々の場面が、ふっと、頭の中に浮かんだ。これらの満州国時代のさまざまなものに触れ、過去の歴史と現在のつながりを感じた。

今回娘の案内で中国の代表的な観光地だけではなく、普段の中国の人たちの日常生活を私なりに少しのぞくことが出来た。また数々の中国人との出会い、触れ合いは私にとってかけがえのない大切な思い出となった。中国の人たちのおおらかで親切な人柄は中国の広大な大地そのものと思った。私の将来の夢は、主人とともにしばらくの期間、このすばらしい中国に留学することである。再見！（福）

久しぶりの台湾旅行

久しぶりに、台湾旅行をした。宿泊したホテルは、“桃園”の飛行場の近くで、以前住んでいた“中壢市”とはすごく近い。夕食の後、タクシーで中壢まで行った。街は明るくなり、どぶ臭さが減って、清潔さが増していた。夜見る街並みはすっかり様変わりして、初めて来た街のように感じた。目印としていた大きな百貨店も無くなっていて、ちょっとがっかりした。気を取り直して、大きな店構えのマッサージ店に入った。従業員の対応は丁寧で、技術はしっかりしており、会話も楽しかった。台湾では放送や学校など公式の場では、“国語”と呼ばれる標準語が使われるが、従業員同士の会話は“福建語”と“客家語”が主流の“台湾語”で、私には全く理解できなかった。彼らの話によると、10年くらい前に、以前有った百貨店は売却されて、別のお店に生まれ変わったという。いろいろ話を訊いているうちに、このマッサージ店は、私たち一家が住んでいた家とは、通りを1つ隔てただけのすぐ近くにあることが分かった。工業区が近くにあるので、出張で来ている日本人もよく利用しているようだった。ほらあの人も日本人だよ...と従業員が言うので、見ただけで日本人だとよく区別できるものだと感心した。

以前の台湾は、バスや自動車だけでなく、テレビ放送の開始時間や終了時間もいい加減で、時間に厳しい日本人にとっては、とても理解できない事だと驚いたものだが、今回の旅行では、以前に比べて、かなり改善され、よくなったと感じた。しかし気象条件が悪いわけでもないのに、ある駅では、列車の到着をかなりの時間待たされた。やはり、日本の交通機関の時間の正確さに匹敵するものはないと思った。今回のガイドさんは時間に厳しく、ツアー参加者はそれをきちんと守り、誰一人遅れる者はなかった。日本人は、なんて従順な民族なんだろうと改めて思った。

台湾南部は果物の生産が盛んで、どの果物もとても美味しかった。露店で買う人も大勢いた。熟したパパイアは皮を剥いて、普通に果物として食べても美味しいが、果肉を牛乳と一緒にミキサーにかけて作る、“木瓜牛奶”(パパイヤミルク)は絶品だ。“蓮霧”は、形は無花果とよく似ている。色は林檎に似ているものが多い。味は林檎と梨を合わせたような味で、さっぱりとしていて美味しいが水分は少ない。“蕃荔枝”は、表面は緑色で凹凸があり、仏像の頭部に見えることから“釈迦頭”とも呼ばれる。熟すと表面の凹凸が鱗のように剥がれ、白いクリーム状の果肉が入っている。中に黒い種子がたくさん入っており、種が多すぎて食べにくいと敬遠する人も多いので、近年、種の少ないものに品種改良された。味は非常に甘味が強く、ねっとりした果肉の中でシャリシャリとした砂糖のような食感がある。ツアーの途中でガイドさんにリクエストして、本来の予定とは別に、地元の産地直売の店に案内してもらった。初めて釈迦頭を食べる人も多く、その味に感嘆の声が上がった。日本に持って帰りたいけど、どうしたらよいかと、ガイドさんは質問攻めにあっていた。隠して税関を通るのは困難だし、傷つきやすい果物なので、持ち帰るのは諦めざるを得なかった。

台湾の夜店は各地で開かれているが、毎日お祭り騒ぎの大賑わいだ。夕食後にぶらぶらと屋台を見て回る。夕食後であっても、地元の人々は良く食べる。台湾の冷たいデザートは有名で、種類も豊富だ。豆乳をプリンのように固めて作る“豆花”は伝統的なデザートで、地元ではよく食べられている。台湾のかき氷は“刨冰”と呼ばれ、カラフルなシロップだけでなく、甘く煮た豆類や南国のフルーツをたっぷり載せて食べる。また、練乳入りの氷を削って作る“綿綿冰”は普通のカキ氷よりも柔らかくふわっとして食べやすい。甘党の私にとって、台湾のデザートはとてもお気に入りだ。でもお腹を壊しやすいので、食べすぎには注意が必要だ。次回台湾に行くときは、ツアーでなく、フリーにゆっくりと、お気に入りの場所を尋ねて回りたいと思う。(金津 麗子)

作文园地

红型染



开始上课前，老师给我们每人一个点心，是冲绳的特产。包纸袋上面画着彩色的燕子。我觉得它是“红型(bingata)”的一种。回家以后查了查，确实是冲绳的红型染图案。

15世纪琉球王朝兴盛时，红型染工艺受到王府的保护。后来不断吸取亚洲文化，发展成为一种具有传奇色彩的印染制品。当时只供王族和上流的士族使用。庆典时他们穿“红型”的衣服作为礼服。当时这种「东洋花布」成为贵重的贸易品。今天在中国历史博物馆也可看见。可见琉球和中国互相之间有过贸易往来。

“红型”的红是彩色的意思，型是纸型。红型中的蓝色表现天空和大海，黄色象征王族，黄色的染料是从树龄一百年的福木榨出的汁液，特别贵重。当时的王族想保持自己的独创的形式，不想让别人使用，听说一个型使用一次就焚烧了，所以当时的型大多没保存下来。

王朝衰落后，普通人也不穿“红型”。他们认为这彩色的衣服太华美，不喜欢穿。“红型”的手法衰退下来，很多年以后才恢复，一直到现在。(内田)

斯里兰卡二日游

斯里兰卡在印度半岛的东南方，有二千万人口，其中百分之七十以上是僧伽罗人，大多数国民是佛教徒。有名的特产是红茶和宝石。还有八处世界遗产。

我九月去了这个充满古代浪漫的国家。我先坐七个半小时飞机到马来西亚，在那儿等了六个小时后，坐一个小时飞机到达斯里兰卡。去之前就听说这个地方的飞机经常晚点，我们的飞机也在没有任何说明的情况下，晚点了一个小时。所以当我们到科伦坡(kolombo)的酒店时，已经深夜一点了(日本时间早上四点)。在酒店因为蚊子的攻击和空调室外机的噪音，我一直没睡着。早上起来发现这家酒店大门口没有门。酒店后面是海，很开阔。这天的旅行目的地是离科伦坡二百公里的古代都市波隆纳鲁沃(polonnaruwa)，一般的交通手段是坐大巴，需要六个小时。

为什么要这么长时间呢，因为道路不好？当然有这个原因。主要是路上常常有独特动物出现。我看到了很大的蜥蜴，猴子，还有大象。当地人开的是旧式车，速度很快，没有红绿灯。很多人摁喇叭、挤进车流。这让我们感到不安。

我们的导游告诉我们，斯里兰卡政府建议我们可以坐空军的战斗机去，一个小时就到。我们又惊又喜。在空军基地，我们接受身体检查后登机。让我想起好莱坞电影，心扑通扑通地跳。战斗机里很窄，噪音很大，但我们可以从飞机上看这个国家的风景。我看到了树木，大概是椰子树，土壤是红色的，没有高的建筑。我忘了说一句，九月正好是旱季，密林变成了稀树草原，很多种类的动物来草原喝水。后来我买了一本书《斯里兰卡生息生物》，书上说，这儿生活着很多种类的动物，有大象，美洲豹，水牛，眼镜猴等等。我偶尔看到野狗，看样子这儿的人没有养宠物的习惯，他们饲养牛，和牛一起散步。

在波隆纳鲁沃我访问了世界遗产之一，一座古老的图书馆遗址，原来，“斯里”的意思是光明、闪耀、高贵、神圣。“兰卡”有一种说法是漂亮。这儿土地肥沃，有很多宝石、金矿等资源、气候适宜，公元前五世纪建立了王国，这儿人们文化水准很高，建造了图书馆。有一座国王的石像，拿着一本书，教他的国民佛教。

第三天一大早，我在酒店附近进行了探险，遇到了很美的风景。清新的空气中，绿色的稀树草原横在眼前。远远还看见了牛群、大象群。我忘记了时间的流逝，久久舍不得离去。那大概是我一生都忘不了的风景了。

这天我就回到了日本。这次的旅行日程很紧，一天之内，生活环境差别太大，我脑子有点儿混乱。

唉，不知什么时候，我再能回到那让我留恋的草原呢。
(井上)



斯里兰卡~我一生都忘不了的风景

世界自然九寨沟·成都之旅

这次九寨沟·成都旅行非常愉快。我早就听说九寨沟很美。可是，没想到这么美。百闻不如一见。

第四天，我们在成都有名的餐厅吃了晚饭，麻婆豆腐很辣。
麻烦胡老师了。中国的导游李小姐和马先生，太谢谢你们了。
我想学好汉语，再去中国。（热 大地）

秋天中国的旅行

从9月17号到22号、我们去了中国。游览了在四川省的三个世界遗产、九寨沟、黄龙和都江堰。虽然大家都知道、中国有四十一个世界遗产。

首先我们去了九寨沟、从四川省的省都——成都、到九寨沟黄龙机场、坐飞机40分钟。机场的海拔是3500米。在九寨沟的观光区里面是坐汽车。九寨沟是一个非常美丽的地方、无法用语言来表达。

其次、我们去了黄龙、坐汽车去黄龙的途中、经过一座4000米的高山。为了预防高山反应、我们用吸氧瓶吸氧了。黄龙和九寨沟一样美如画。两个地方都给我留下了深刻的印象。

另外、有关我的中文、在旅行的时候、我听不懂中国人说的话、我再次觉得最重要的是记中文单词。我想努力学习中文、可是说起来容易、做起来难。

最后、胡老师、多承您的帮忙、衷心感谢。（河西尚子）

あなたと出会うのは私の縁

～私たちと九寨溝の子供たち～

三年ぶりに私はまた高原—九寨溝に帰って来た。よく知る学校、親しい顔に純朴な村。

一つの偶然な機会が私をここの子供たちと結びつけた。数年前、私がここの学校に初めて来た時、子供たちは二年生になったばかりだったことを覚えている。明るい教室に、置かれているのは不釣り合いな古ぼけた机と椅子、寒い冬も、教室に暖房はない。私は厚手のダウンジャケットを着て、好奇心で、霜焼けのような赤いほっぺで真面目な笑みに向かい合った時、突然暖かいものが胸に込み上げて来るのを感じた。私は子供たちに向かって、これからあなたたちと友達になって、一緒に勉強したいと言った時、子供たちは嬉しそうに拍手をした。このクラスは皆チベット族で、子供たちは学習規定にある教科のほかに、自らの民族の言語と文字を学ばなければならない。

ここは農牧地区のため、子供たちの大多数の家庭は経済状態があまり良くない、だから私は日本の友人たちと、子供たちに文具を支援することを決め、毎年一回、九寨溝に子供たちを訪ねて、勉強の様子を知り、子供たちと一緒に授業をしたり、遊んだりした。子供たちと触れ合う内に、私は様々な理由によって子供たちの学習用具が少なく、遊び道具もまた足りないことが分かった。

子供たちが絵を描くのに、あとになって画用紙がないことに気付いたが、大部分はカレンダーの裏面や、使った紙の裏面に描いている。しかも色鉛筆がないため、色は単調だ。先生に聞けば、色鉛筆は学校にしかなく、子供たちは学校で絵を仕上げるといふ。また昼の休憩時間には、学校から家まで大変遠いため、大多数の子供は帰宅して昼ご飯を食べることができないので、皆が弁当を持って来る。ある女の子が私にも弁当を持って来てくれ、私はとても感激したが、大変やりきれない思いもした。その弁当は幾つかの焼いたジャガイモとそば切りで作ったマントウだけ。野菜はなく、学校がお昼に無料で茶をくれるので、子供たちは一年中、ほとんどジャガイモにトウガラシか塩をつけて食べている。

しかし子供たちはとても愉快で、毎日何時間かの山道を歩いて通学するのも大変楽しい、と私に言う。学校には級友がいるし、たくさんの図書もあるし、またサッカーやバスケットのボールもあるからだ。しかしその後、学校の経済状態もまた悪く、多くの物がすべて国家の無償供与であり、また社会各界の援助に頼っていることを私は知った。

私は学校の先生たちを心から尊敬している。毎日の仕事は大変な苦勞があり、時には子供たちを家まで、往復二時間余りかけて送らなければならない、また時には子供たちの学用品などを買うお金を立て替えなければならない。先生たちはずっと、こんな人知れぬ苦勞をしながら仕事をしている。

家庭訪問の時には、子供たちの保護者もとても親切で、これまた私を感激させる。ある保護者は「私たちの文化水準はとても低い、だから子供たちにはしっかり勉強ができるよう、自分たちはもっと苦しくても、子供たちが学校に行けることを望んでいる」と話す。またある子の兄は、家計が苦しいので、長男である自分が進学を諦め、中学を卒業するとすぐ家に帰って農業に従事し、父母の負担を軽くし、二人の妹の就学が続けられるようにする、と言う……このような例はたくさんあるが、私が見る限り、皆きらきら輝く笑顔で、未来に向かって希望にあふれる瞳である。

2008年、四川大地震が発生したために、本来なら子供たちの卒業式に参加するつもりだったのが、行くことができなかった。その後二年もまた諸事情で帰ることができず、胸の内にずっと子供たちのことが気にかかっていた。幸い学校の先生から、いつも便りで子供たちの様子を知らされ、子供たちが全員中学に進み、学校の寮に住んで、勉強も非常に努力していることを知った。子供たちの家庭状況も以前より良くなった。

今回、私はかつての子供たちの学校に戻って、先生たちに再会した。子供たちの中学は町にあり、しかも学校の活動があるため、今回は本当に残念だが子供たちには会えなかった。しかし、先生たちは私に大変嬉しいことを告げた。それはこのクラスの子供たちが全て高校に進学し、ある者はさらに重点校にさえ合格したという。

(私がずっと心配していたのは全ての子供たちが順調に高校に進学できるかどうかであり、中国で実施されているのは九年間の義務教育であるため、高校進学後、例えば学費や本代など、自費が必要になる点が大変多く、経済的な理由で学校に行けない子供が出るのではないかと心配する)

私は子供たちのことを耳にして本当に嬉しかった。子供たちは保護者や、先生の期待を無にすることなく、また私と子供たちとの間の、すなわち勉強に励み、しっかり成長するという約束を実現した。

ここで私は日本の友人たちにも子供たちへの支援と慈愛に感謝し、あなた方の良心に感謝します。機会があればもう一度かの地を訪ね、子供たちと会い、歓談できることを望みます。

(笔译：建仁)



大家来看中华电影！第8回

大家好！每个月一号是 T-JOY 出云的“电影优惠日”，你们知道吗？一千日元就可以看一场电影。从这个十月一号 T-JOY 出云开始上映一部中国电影。所以我去出云看了这部张艺谋拍摄的“山楂树之恋”。

在中国最有名的导演要数张艺谋了，你知道他吗？1987年他以导演“红高粱(紅いコーリャン)”进入了电影导演世界。然后陆续拍了：2000年“我的父亲母亲(初恋の来た道)”，2002年“英雄(HERO)”，2004年“十面埋伏(Lovers)”，2006年“满城尽带黄金甲(王妃の紋章)”，他趋向于拍摄越来越豪华的商业电影。2008年他成为北京奥运会开幕式的总策划人。大家还记得那个精彩的开幕式吗？

这部“山楂树之恋”却有张艺谋初期作品的味道。他把文革时代的恋爱故事描写得质朴而生动。接下来我介绍一下“山楂树之恋”。

『山楂树之恋』

日语题目 『サンザシの樹の下で』



导演 张艺谋

拍摄地方 湖北省远安县

演员 周冬雨 (ジョウ・トンユイ) 窦骁 (ショーン・ドウ)

剧情简介 在文革暴风席卷的1970年代初，在中国的一座城市有一个女高中生静秋。她被派到农村，住在那儿的村长家搞调查。她在那儿见到地质调查队员孙哥。孙哥常常关心离开家一个人生活的静秋，静秋也越来越喜欢他了。

静秋回城市后，孙哥继续在暗处照顾静秋，静秋有什么困难，他一定帮她的忙。

不知不觉他们俩开始偷偷地约会。但是，有一天他们俩骑一辆自行车的时候，偶然碰到她妈妈，这个恋爱被她妈妈知道了。她妈妈求孙哥，不要打扰静秋直到静秋当上老师。因为，静秋家的情况特别不好。她爸爸成了走资派，能当老师是唯一的机会。孙哥理解她们家的情况，告诉静秋他会永远等待她，然后离开了她们。

静秋的妈妈说“你们俩很年轻，人生的路很长，还有很多时间。”可是……。

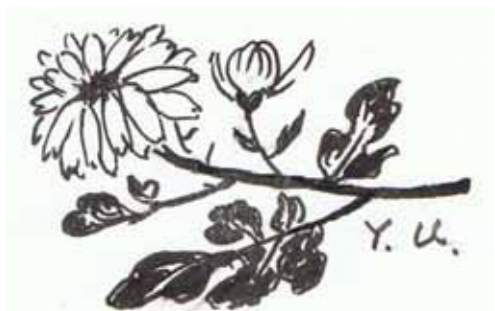
一句评论 推出国际女明星巩俐，章子怡等等的张艺谋，这次发现的是十八岁的高中生周冬雨。她虽然第一次演静秋这个角色，却演得很好。这部电影让她出了名。这部电影也让拍摄地远安县出了名。人们把远安县叫做“山楂县”，吸引了很多游客。

P. S. 在这部电影中的山楂树是中国原产。春天开白色的花，秋天结红色的果，像小苹果。在中国，这种甜酸的山楂果是中药，也当作点心吃，很普遍。如果你去过中国，喝过中国茶的话，可能吃过山楂片。我觉得有点像日本的梅子。(奈良麻子)



散文欣赏

秋天的怀念



双腿瘫痪后，我的脾气变得暴怒无常。望着望着天上北归的雁阵，我会突然把面前的玻璃砸碎；听着听着李谷一甜美的歌声，我会猛地把手边的东西摔向四周的墙壁。母亲就悄悄地躲出去，在我看不见的地方偷偷地听着我的动静。当一切恢复沉寂，她又悄悄地进来，眼边红红的，看着我。“听说北海的花儿都开了，我推着你去走走。”她总是这么说。母亲喜欢花，可自从我的腿瘫痪后，她侍弄的那些花都死了。

“不，我不去！”我狠命地捶打这两条可恨的腿，喊着：“我活着什么劲！”母亲扑过来抓住我的手，忍住哭声说：“咱娘儿俩在一块儿，好好儿活，好好儿活……”可我却一直都不知道，她的病已经到了那步田地。后来妹妹告诉我，她常常肝疼得整宿整宿翻来覆去地睡不了觉。

那天我又独自坐在屋里，看着窗外的树叶“唰唰啦啦”地飘落。母亲进来了，挡在窗前：“北海的菊花开了，我推着你去看看吧。”她憔悴的脸上现出央求般的神色。“什么时候？”“你要是愿意，就明天？”她说。我的回答已经让她喜出望外了。“好吧，就明天。”我说。她高兴得一会坐下，一会站起：“那就赶紧准备准备。”“唉呀，烦不烦？几步路，有什么好准备的！”她也笑了，坐在我身边，絮絮叨叨地说着：“看完菊花，咱们就去‘仿膳’，你小时候最爱吃那儿的豌豆黄儿。还记得那回我带你去北海吗？你偏说那杨树花是毛毛虫，跑着，一脚踩扁一个……”她忽然不说了。对于“跑”和“踩”一类的字眼儿，她比我还敏感。她又悄悄地出去了。

她出去了。就再也没回来。

邻居们把她抬上车时，她还在大口大口地吐着鲜血。我没想到她已经病成那样。看着三轮车远去，也绝没有想到那竟是永远的诀别。

邻居的小伙子背着我去看她的时候，她正艰难地呼吸着，像她那一生艰难的生活。别人告诉我，她昏迷前的最后一句话是：“我那个有病的儿子和我那个还未成年的女儿……”

又是秋天，妹妹推我去北海看了菊花。黄色的花淡雅、白色的花高洁、紫红色的花热烈而深沉，泼泼洒洒，秋风中正开得烂漫。我懂得母亲没有说完的话。妹妹也懂。我俩在一块儿，要好好儿活……

（日本語訳は次号に掲載）

作者介绍 史铁生（1951-2010），北京人，中国当代著名作家。1969年到陕北延安地区“插队”。三年后因双腿瘫痪回到北京，在北新桥街道工厂工作，后因病情加重回家疗养。1979年开始发表作品。因脑溢血故于2010年12月31日。《秋天的怀念》是史铁生对已故母亲的回忆，表现了史铁生对母亲深切的怀念，对母亲无尽的爱。

中国語と日本語(一)

中国では9月から10月にかけて「中秋節」、「国慶節」といった重要な祝日が続きます。この時期は、風がさわやかで、空が澄み渡る「金秋」と呼ばれています。中秋節には「月餅」を贈答品として送る習慣があります。が、海外に居ると月餅の代わりに、メールで互いに祝福の言葉を送ることが多いです。研修のため島根県に滞在している中国人のさんに次のようなジョークメールが来たそうです。

「奥巴马马访华时 对胡锦涛说 他终于明白了中国文化其实就是吃的文化。」

比如：谋生叫糊口 岗位叫饭碗・受雇叫混饭 花积蓄叫吃老本・混得好叫吃得开 占女人便宜叫吃豆腐・男人花女人的钱叫吃软饭，工作多了叫吃不消 受人欢迎叫吃香・受到照顾叫吃小灶 不顾他人叫吃独食・受人伤害叫吃亏 男女嫉妒叫吃醋・犹豫不决叫吃不准，负不起责任叫吃不了兜着走 办事不力叫吃干饭。在政府部门工作叫吃皇粮。

胡锦涛听后很生气 说：我们应该好好总结一下中美关系 你却总结中国文化 是不是吃饱了撑的？」

「オバマ大統領が訪中時、胡锦涛主席に、中国文化はまさに食文化だ、と言った。

例えば、生計を立てることを『糊口』、職のポストを『飯碗』、雇われることを『混飯』

貯金を崩すことを『吃老本』、出世することを『吃得開』、女性へのセクハラを『吃豆腐』、夫が妻の金を使うことを『吃軟飯』、仕事が多すぎることを『吃不消』、人気があることを『吃香』、面倒を見てもらうことを『吃小竈』、独り占めすることを『吃独食』、損することを『吃亏』、やきもちを焼くのを『吃酢』、躊躇するのを『吃不准』、仕事が出来ないのを『吃干飯』、責任を負えないことを『吃不了兜着走』、政府部門で働くことを『吃皇糧』と言う。

胡锦涛主席がそれを聞いて怒った。わたしたちは中米関係を締めくくるべきであるのに、あなたは中国文化をまとめていらつしやる。『吃饱了撑的』余計なお節介をやっているのでは？」

一人ぼつちで異郷に居る友達を笑わせるのもお祝いの一つなのでしよう。俗な表現ですが、日常的によく使われる言葉がたくさん入っているのです。ここでご紹介しました。次は、もっとまじめな話題に入ります。



秋 桜

動詞が多いのが中国語の特徴です。詩や文章を作るときに動詞を吟味する逸話をよく耳にします。皆さんご存知の「推敲」の熟語も、唐の詩人、賈島が月明かりの夜に友人宅を訪れる詩の一句、「鸟宿池边树 僧敲月下门」を詠むに当たって、「敲」と「推」どちらを使うかで苦心した話から来ています。

動詞が多いうえに、後ろに補語となる動詞や形容詞まで付くと、さらに文がややこしくなります。例えば「明白」(分かる)と言う補語に、先頭にいろんな動詞をつけると、「听明白」(聞いて分かる)、「説明白了」(説明して明白にする)、「弄明白」(人に聞いた)、「辞書で調べたりして手段を問わずなんとかして理解する」となります。

「なんでこんなに動詞にこだわっているの。」教室の生徒が不満そうな顔。

「動詞が抜けると、文が面白くない、味気ないの。日本語だって、個別のイメージを描写するのが得意で、擬音語と擬態語がいっぱいあるでしょう。同じ「転がる」でも、『コロコロ』、『コロリ』、『コロツ』、『コロコロリ』、『コロコロロン』。中国語のように『滾』一文字にしたらいいのに。」

「でも、それぞれ感覚が違うもん。」との返答。

それはそうです。その感覚が掴めるのは外国語学習において最高の喜びです。そして語の感覚を研ぎ澄ますには多読が必要です。今号から散文鑑賞の欄を設けます。ぜひ一読してください。

「ごちゃごちゃと書きましたが、みなさん「看明白了吗？」(ご理解できましたか)」